

刊 行 物 の ご 案 内

『中高生のための『岡山の日本画 — 江戸時代から現代まで — 』』

当館刊行の「中高生のための新書シリーズ」も4冊目となりました。今回は「岡山の日本画-江戸時代から現代まで-」をテーマに取り上げます。本書では、岡山にゆかりの深い江戸時代から現代までの日本画家 38 人の図版を鑑賞しながら、岡山の日本画の動向をたどります。また、日本画の画材や用具、表具、技法、絵のテーマなどについてもわかりやすく解説しています。

- A5 変形版 146 ページ
- 県内の中学校、高校、大学や図書館に配布
- 平成21年3月31日発行
- 当館にて500円で販売中



『岡山県立美術館紀要』

当館学芸員による専門領域での研究を広く知っていただき、その成果を発表するため、開館以来の宿願であった研究紀要を発行することとなりました。研究の成果を公開し、知識を共有することで、さらに研究が広がり、広まっていくことを期待しています。

- A4 版 80 ページ
- 県内の図書館および、全国の主要美術館に配布
- 平成21年3月31日発行
- 販売はしておりません。



『作庭家・庭園史家 重森三玲』

平成21年4月1日から5月31日まで当館で開催した「特別企画 作庭家・庭園史家 重森三玲展」に合わせて発行されたミニ図録。展覧会出品作品のうち 30 点の図版を掲載。代表作である東福寺方丈庭園や光明院庭園の設計図面や、三玲自身が調査・実測した岡山に所在する庭園の図面をはじめ、三玲の手による書画や遺愛の品も紹介。また、郷里の吉備中央町に現存し、当館 2 階展示室に復元・公開された三玲意匠の書院についても解説しています。

- A4 版 16 ページ
- 平成21年4月1日発行
- 当館にて300円で販売中



平成21年度展覧会スケジュール(7月～11月)

■特別展

7月17日(金)～8月23日(日)
「建仁寺
—高台寺・圓徳院・備中足守藩主木下家の名宝とともに—」
会場：2階展示室および地下展示室の一部

9月2日(水)～9月13日(日)
「第60回岡山県美術展覧会」
会場：地下1階展示室

9月18日(金)～11月3日(火・祝)
「ターナーから印象派へ」
会場：地下1階展示室

□岡山の美術展

1期：6月5日(金)～7月12日(日)
2期：7月17日(金)～8月23日(日)
特別企画「郭沫若展—日中友好の架け橋—」
会場：地下展示室の一部

8月27日(木)～11月8日(日)
特別企画「おかやまアート・コレクション探訪PartII～仮面～」
「国吉康雄・坂田一男・小野竹喬・森谷南人子 生誕120年を記念して」
「原撫松の軌跡」
「大正期以降の油彩画と現代の美術」
会場：2階展示室

編 集 後 記

美術館ニュース 85 号をお届けします。およそ3ヶ月に及ぶリニューアル休館を経て、無事4月から開館することとなりました。リニューアル後、第一弾の特別展「追悼 片岡球子展」では、当館の予想を上回るお客様にご来館いただきました。工事中の閑散とした展示室が、多くの人で賑わう様子を見て、開かれてこそこの美術館とご感じた次第です。

[S.T.]

特別展の紹介 「建仁寺－高台寺・圓徳院・備中足守藩主木下家の名宝とともに－」

会期：平成21年7月17日(金)～8月23日(日)

中国南宋から日本に禅と茶をもたらした栄西禪師(1141-1215)。彼は備中吉備津(岡山市)に生まれ、仏道に精進しながら二度にわたって中国へ赴き、帰国後、京都東山の地に建仁寺を開きました。同寺は臨済宗建仁寺派の大本山として隆盛を誇り、室町時代には京都五山に列しています。歴代高僧が住持を務め、学問や文芸が盛んに行われたことで数多の文化財が伝えられています。ちなみに岡山では栄西禪師の偉業に因んで毎年四月に栄西茶会が後楽園で盛大に催されています。

高台寺は建仁寺派の寺院で、豊臣秀吉の正室北政所(高台院)が秀吉の冥福を祈るため建立した寺です。そして秀吉夫妻の肖像画とともに、その甥で関ヶ原合戦後に岡山を領した小早川秀秋の画像も遺るなど、当地との縁の深い禅寺であります。

圓徳院は高台院が秀吉の死後19年間余生を送り終焉の地としましたが、それを支えていたのが兄木下家定とその次男利房(秀吉夫妻の甥)です。圓徳院はこの利房の手により木下家の菩提寺として開かれましたが、長谷川等伯の襖絵を伝える寺としても有名です。

備中足守藩は関ヶ原合戦後、北政所の兄木下家定が備中足守(岡山市)へ移封されたことに始まり、利房の系統が江戸時代においても「豊臣」の姓をもち、足守藩主木下家として明治維新を迎えました。同家は秀吉の関白叙任書や朱印状をはじめ、秀吉夫妻にかかわる貴重な資料を今に伝えています。

本展は、以上のように岡山と結びつきの深い建仁寺のご宝物を中心に、ゆかりの高台寺・圓徳院・備中足守藩主木下家の名宝を一堂に会し、歴史と文化の繋がりと広がり、そして美術の豊かさを多面的に紹介しようとするものです。



(明庵栄西像)(部分)
絶海中津賛 両足院蔵



重要文化財
《高台院像》高台寺蔵



国宝 後屋宗達
《風神雷神図のうち風神図》
建仁寺蔵

記念講演「建仁寺・高台寺・圓徳院と岡山」 7月18日(土) 14:00～15:30 講師：守安 収(当館副館長)
学芸員によるギャラリートーク 7月21日(火)・28日(火)・31日(金) 各14:00～
美術の夕べ「建仁寺展をみる」 7月24日(金) 18:00～19:00 講師：守安 収

開 催 事 業

主な出品作品 (●) 国宝 ○ 重要文化財

【建仁寺関係】 ● 風神雷神図屏風 後屋宗達筆 2曲1双 建仁寺 ※展示は8月17日～23日

○ 雲龍図 海北友松筆 8幅のうち 建仁寺 ○ 豊臣秀吉像 南化玄興賛 1幅 ○ 高台院像 1幅

【圓徳院関係】 ○ 山水図(春景) 長谷川等伯筆 襖4枚

展覧会紹介「郭沫若展」

郭沫若(1892-1978)は、中国四川省楽山県沙湾鎮に生まれ、大正3年(1914)日本に留学し、岡山の第六高等学校を経て九州帝大医学部を卒業しました。在学時より文学活動に励み、上海で文学団体「創造社」を設立。その後中国共産党に加入し蒋介石に追われ、昭和3年(1928)日本に亡命し、昭和12年まで千葉県市川市に在住しました。日中戦争開始直後に中国に帰国、中華人民共和国成立後は中国政府の要人として日中の交流に尽力し、文学者・歴史家・政治家として多彩な活動を展開しました。昭和30年(1955)には中国学術文化視察団団長として来日、12月14日に来岡、岡山大学・後楽園などを訪問しました。翌年7月には2羽のタンチョウ鶴を後楽園に贈っています。



郭沫若肖像

本展は北京郭沫若記念館の所蔵品である自筆書画36点をはじめ、文具など愛用の品々、140点余りの写真等を展示するとともに、県下に所在する郭沫若と、交友のあった内山完造・岡崎嘉平太関係者の書簡等関係品もあわせてご覧いただけます。日本と中国における芸術・文化の相互交流、及び両国の更なる理解を深めるきっかけとなれば幸いです。

会場／岡山県立美術館地下1階展示室
開催期間／

前期—2009年6月5日(金)～7月12日(日)

後期—2009年7月17日(金)～8月23日(日)

休館日／6月8、15、22、29日、7月6、13、
14、15、16、27日、8月3日

開催時間／9:00～17:00

観覧料金／

・岡山の美術展観覧料金でご覧いただけます。(一般300円、高・大生200円、
小中学生・65歳以上無料)

・6月5日～7月12日の期間は、同時開催の「朝鮮王朝の絵画と日本」展の観覧券
でご覧いただけます。

・7月17日～8月23日の期間は「建仁寺—
高台寺・圓徳院・備中足守藩主木下家の名宝とともに」展の観覧券で
ご覧いただけます。



岸田劉生「ギヤマンのある静物」